

## 【補足資料】秩父・皆野新校基本計画検討委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和4年12月21日（水） 午後3時開会  
午後4時20分終了
- 2 会 場 県立秩父高等学校図書館2階研修室
- 3 出席委員 栗藤委員長、増田副委員長、小泉副委員長、横田委員、新井委員、池田委員、永田（憲）委員、茂木委員、富田委員、齊藤（友）委員、永田（明）委員、千島委員、坂本委員、横山委員、大場委員、吉田委員、岩本委員、外山委員、上遠野委員、齊藤（洋）委員、小林委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 坂本、高辻
- 5 協 議 「秩父・皆野新校基本計画検討（案）」について  
栗藤委員長 それでは、協議に入ってまいります。まず、事務局の方から、この委員会の性格等について説明をお願いしたいと思います。  
事務局 （新校基本計画検討委員会について、今後のスケジュールについて説明）  
栗藤委員長 事務局から説明がありましたが、何か御質問等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、資料1、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策に関して、事務局から説明をお願いします。  
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）  
栗藤委員長 実施方策について、説明がございました。昨年10月に策定され、県民の皆様既に公表している内容となっております。何か質問等がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、次に進めたいと思います。ただ今説明がありました実施方策をもとに、両校において、新校基本計画検討（案）を作成していただいております。副委員長である両校教頭から説明を含めてお願いしたいと思います。項目が多岐にわたっておりますので、最初は基本理念から基本姿勢というところまで、まずお願いをしたいと思います。そして皆さんから御意見等を頂戴して、これを繰り返していきたいと思います。では、よろしく願いいたします。  
増田副委員長 （秩父・皆野新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について秩父高校案を説明）  
小泉副委員長 （秩父・皆野新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について皆野高校案を説明）  
栗藤委員長 資料ですが、基本理念の（1）は目指す学校となっております。最終的に基本計画をまとめる際には、目指す学校という項目でまとめていきます。各学校には目指す学校像がございますけれども、それと同一のものではないということは、

御理解いただきたいと思います。この中から目指す学校像が生まれてくると良いと思っております。資料を御覧いただきますと、一番右側の列に論点という項目があるかと思っております。こちらについて、事務局の方から説明をお願いします。

事務局（秩父・皆野新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について論点を説明）

栗藤委員長 論点についてはそれぞれの項目についております。それでは最初のパート、目指す学校、育てたい生徒像、基本姿勢について御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

上遠野委員 一点、論点のところ、事務局のイメージをお聞かせいただきたいのですが、国内外で活躍できるグローバル人材とあるのですが、国外で活躍できるグローバル人材というのはイメージが湧くのですが、国内で活躍できるグローバル人材というのは、どういうイメージなのでしょう。その点を教えていただければと思います。

事務局 国外と言うと、海外に行って活躍するイメージだと思っておりますが、国内においても、いろいろ秩父、皆野の観光資源などを海外に発信するという役割もありますので、当然、秩父、皆野に残りながら海外に秩父の良さをPRするような、そういったことで国内外としています。そのため、全てが海外に行くのではなく、秩父、皆野に残りながらも、グローバルに活躍できるという意味で書かせていただいております。

上遠野委員 ありがとうございます。

栗藤委員長 他にございますか。関連することしないこと、なんでも結構でございます。それでは、先に進みたいと思います。後で、前に立ち返るという機会も作りたいたと思います。教科指導についてお願いします。

増田副委員長（秩父・皆野新校基本計画検討（案）のうち教科指導について秩父高校案を説明）

小泉副委員長（秩父・皆野新校基本計画検討（案）のうち教科指導について皆野高校案を説明）

小泉副委員長 少し補足ですが、多様な言語というところについて、秩父地域の企業が、アジア圏、東南アジア等にも進出しており、あと、インバウンドについても地方に観光で訪れる方もアジア圏が多いということで、英語だけに捉われるのではなく、中国語等の表現とさせていただきました。あと、外国人講師についても、これもALTを増やすということではなく、皆野にも地域おこし協力隊の中で海外の方がいらっしゃいます。秩父地域も海外からお越しになって、いろいろ協力してくれる方がたくさんいると思いますので、教員というような目線だけではなく、そういった外部の力や支援を充実させられればと思っています。あとは、そういった方たちと国際クラブの立ち上げですとか、そういったことも出来れば面白いなと思っています。また、高度な語学力というところも、単に話せるだけではなく、自分の国と海外の国の文化までを理解するような、そういった視点で、語学の力を付けてもらいたいと考えました。

栗藤委員長 事務局の方から論点の説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち教科指導について論点を説明)

栗藤委員長 教科指導について説明がありました。先ほど事務局からもありましたが、新しく立ち上がる三つの学校の基本方針の二つは同じ記載になっておりますので、そういったところでは他の2校との関係については、後々、事務局の方から調整させていただきたいと思っておりますが、今日のところはそれぞれの学校から案が出ておりますので、それに対する御意見をいただければと思っております。では、御意見や御質問ありましたらお願いします。では私から一つ事務局によろしいでしょうか。今回、国際に関する学科ということになっていますが、埼玉県内には、現在七つの学校に外国語科、あるいはそれに類する学科がございます。この違いみたいなところは、簡単に言うとどんなところでしょうか。

事務局 外国語科というのは、外国語に関する科目を25単位以上設けているところがありますので、そういったところで、県内には7校ですね、外国語に関する科目を25単位以上設けている学校が7校ほどあると。国際科もそれに近いところがあります。ですので、外国語に関する科目25単位以上でも結構ですし、国際に関する科目と言いましょか、学校設定科目でも結構ですが、そういったところで25単位以上履修するというのが国際科の条件かなというところで事務局としては捉えております。そういったところを意識していただければと思います。外国語プラス国際に関する学校設定科目等々を含めてですね、当然外国語科だけでなく他教科の方も、外国語の先生も当然中心になるのですが、国語や地歴公民など、他教科の先生も含めて、国際科に関わっていただきたいということで、外国語科との違いですね、単位数プラス外国語学科は外国語科の先生が中心になってくる部分がありますが、国際科は外国語科の先生プラス普通教科の先生も国際に関して力を入れて授業を進めていただければと思います。

栗藤委員長 こういう質問をさせていただいたのは、外国語科と国際に関する学科の何が違うのかということをよく聞かれるものですから、確認をさせていただきました。外国語科に関しては、相当な歴史がある埼玉県なんですけれども、スタートが外国語教育というところですので、国際科については、他県、例えば東京の都立国際高校や神奈川県横浜国際高校など、いくつか国際の名を冠する他県の高校の例を見ますと、ただ外国語を勉強するだけではなくて、もちろんそれもあります、様々な文化的な側面であるとか、その中には日本の文化も学ぶといった授業もあったりとか、地歴や国語や場合によっては家庭科などとコラボするような、教科を横断するような科目が置いてあったりします。そういったことを是非やっていただくと良いなというのがあります。これは、埼玉県内の外国語科においても、実は既に行われている部分もありますが、そういった中でより発展的に、今の学習指導要領に合わせる形で授業を広げていけると良いのかなと思います。引き続き、是非御意見を頂戴したいので、よろしく願いいたします。

増田副委員長 要望と言いますか、質問ということではないのですが、国際に関する学科というのが出てきて、普通科の併置校ということですが、論点を拝見している

と、国際に関するワードは出てきますが、普通科の方が置き去りにされているイメージが私の方で少しあります。恐らくどんな学びになるのかはこれから決めていくことかなとは思いますが、どのくらいの割合になるか分かりませんが、かなりの割合で普通科の授業を受ける生徒が在籍するので、そちらに対するメッセージ性が強いようなことを、少し入れていただくと有り難いと思います。

栗藤委員長 何か事務局からありますか。

事務局 御意見として承りました。確かに基本方針でも国際に関する学科が中心に記載されていますが、当然普通科の方も、規模がどのくらいになるかはまだ確定していませんが、第2回の委員会ではこういった、普通科何クラス、国際科何クラスということも第2回以降で御提示というか御相談したいなと思っておりますが、ここでは普通科の方も、こういったところにも記載できるような形で努めていきたいとは思っております。

栗藤委員長 大切な視点だと思います。よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。生徒指導について、お願いします。

増田副委員長 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について秩父高校案を説明)

小泉副委員長 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について皆野高校案を説明)

小泉副委員長 生徒指導で考えたのは、インクルーシブ教育の視点と、本校では現在、通級指導を実施しており、新校では通級指導を置かないといった話もありましたが、秩父には特別支援学校もありますので、そうした他者との交流を大切にしたいやりの精神を高めるといところで、高校だけではなく、特別支援学校等との連携、小・中学校との交流事業も含めた生徒指導が出来ればと思っています。また、制服については、少し細かい話ですが、新しい高校になるわけですので、ゼロベースで考えてみるのも良いのかなと思います。制服の必要性も含めて考えられると良いのかなと思います。

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について論点を説明)

栗藤委員長 それではこのパートについて、御意見や御質問がありましたらお願いいたします。後ほど事務局からも説明しますが、例えば制服とか、あるいは生徒指導のいわゆる校則あるいは生徒心得をどのように作成していくかという、開校の2年前になったところで、それぞれの学校の先生方が集まって新校開設委員会で行います。この新校基本計画検討委員会は、大きな枠組を考える委員会となりますので、実際の教育課程をどうするか、生徒指導、制服をどうするかについては、少し先のところでの検討となりますが、ただ、御提出されている案では、そもそも制服をどう考えるかといったかなり大きなテーマも入っておりますので、何か御意見があれば頂けると有り難いと思っております。

上遠野委員 生徒指導についてですね。生徒指導提要が今年の12月に改訂され、各学校にも通知させていただいております。先ほど小泉教頭先生からもありました、

ゼロベースで考える良い機会ということもありますので、視点としては積極的な生徒指導、今まではマイナスを排除するといった思考が多かったところですが、是非、案にも記載されていますが、生徒の自主的な活動とか、積極的に参加するとか、そういう視点が大切です。また、今回、生徒指導提要の中にもありますように、生徒や保護者の意見も取り入れながら、このグローバルという大目標に鑑みて、どのように制服を設けるかという視点で、今後決めていただければと思います。各論になると、現実問題にどうしても直結するところもありますが、今後、制服とか校則とかを決める際には、そもそもの主体性や多様性、グローバルなどに繋がるように議論していただければと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。そういう大きなところを、この委員会では議論いただきたいと思います。それでは、次の項目の進路指導に進めたいと思います。

増田副委員長 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち進路指導について秩父高校案を説明)

小泉副委員長 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち進路指導について皆野高校案を説明)

小泉副委員長 やはり、進学校として生徒を育て、進学して秩父地域から出る生徒もいますが、秩父地域の企業も人材不足という語弊がありますが、ただ外に出すだけではなく、是非、秩父地域にも戻ってきてもらい、秩父地域の企業のリーダーとなる、そういった人材を育成してもらいたいという、地元の企業からの要望もあると思うので、進学校ですけれど、進学して秩父地域から出て、また戻ってきて秩父地域を盛り上げてくれる人材を是非育成したいと考えています。

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち進路指導について論点を説明)

栗藤委員長 それでは、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。では、ないようですので、次に進みます。生徒募集についてお願いします。

増田副委員長 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について秩父高校案を説明)

小泉副委員長 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について皆野高校案を説明)

小泉副委員長 やはり部活動の活性化と言うのでしょうか、文武両道というところも要になってくるのかと思いますので、特に生徒募集の欄に記載していませんが、勉強だけではなく、部活動で活躍している生徒を積極的に募集するというのも大事なことだと思います。

栗藤委員長 事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について論点を説明)

栗藤委員長 生徒募集については、第1期実施方策に基づいてこの春に開校する児玉新校と飯能新校がありますが、これまでの平成年代に行われたいきいきハイスクールなどでは、新校と言うと、比較的中学生が関心を寄せてくれたのですが、なかなか現在ではそういう状況になっておらず、皆さん御案内のとおり、中学生からする

と、私立の高校が大変大きな選択肢になっています。それから、中学校では不登校気味で学校に馴染めないという話も聞きますが、そういった中学生が通信制を積極的に選んでいるという状況の中で、県立の高校も頑張っていかなければならないので、様々な戦術的なところも練る必要がありますが、何よりも大切なのは戦略を練ることだと思いますので、どういった生徒募集の打ち出し方をしていけば良いのか、そういったところがここに表れているのかと思います。それでは、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。意見が出ないようなので、事務局に伺います。入試に関してのアイデアが寄せられています。これは、担当課とこの後調整していくのでしょうか。

事務局 そうですね。なかなか当課でははっきりと答えられない部分もございますので、高校教育指導課等々ともまた相談していければと思います。御意見があれば本日いただければと思います。

栗藤委員長 入試については、いろいろな検討もなされているところだと思うのですが、この秩父・皆野新校として特色を持たせた入学者選抜制度があっても良いのではないかという案が出されているところですね。それでは、御意見がないようですので、最後のその他について、こちらは皆野高校から出ておりますので、御説明をお願いします。

小泉副委員長 (秩父・皆野新校基本計画検討(案)のうちその他について皆野高校案を説明)

小泉副委員長 小学校、中学校、高校、更には大学、そういったところも含めた連携をできれば。本校は、皆野町と早稲田大学との連携というところで、オンラインでの交流ですとか、タイの大学生との交流なども今まで行ってきましたが、具体的な大学名は記載しづらい部分もあると思いますが、そうしたところも視野に入れて連携を深め、海外との交流が図れば良いのかなと思いました。高校だけということだけでなく、広く連携が出来ればと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。全ての説明が終わりました。最後のその他も含めてですが、前に戻っても結構ですので、全体を通して御質問、御意見があればお願いします。よろしいでしょうか。それでは、以上で協議を終了したいと思います。それぞれの教頭先生はこの12月1日から、魅力ある高校づくり課の主任管理主事を兼務しています。ですので、今後、いろいろな御意見があったときには、両校の教頭先生を通じて、いろいろと御意見を頂戴できれば、教育局内で検討していきますので、よろしくをお願いします。